

# 感染症※1の流行下でのPAZ内の防護措置

- 感染症の流行下において原子力災害が発生した場合、感染者や感染の疑いのある者も含め、感染拡大・予防対策を十分考慮した上で、避難や屋内退避等の各種防護措置を行う。
- 具体的には、PAZ内の住民が避難を行う場合には、その過程(避難車両等)又は避難先(避難所等)などにおける感染拡大を防ぐため、感染者とそれ以外の者との分離、人と人との距離の確保、マスクの着用、手洗いなどの手指衛生等の感染対策を実施する。
- 原子力災害の発生状況、感染拡大の状況及び避難車両や避難所等の確保状況など、その時々状況に応じて、車両や避難所を分ける、又は同じ車両や避難所内で距離や離隔を保つなど、柔軟に対応する。

## <感染症(新型インフルエンザ等)の流行下での原子力災害が発生した場合(PAZ)>

		避難元	避難等の実施	避難先	手洗い・消毒・マスク着用・一定の距離確保等の感染予防策を徹底
施設敷地緊急事態要避難者	感染者(重症者)			感染症指定医療機関等で治療	
	避難の実施により健康リスクが高まる者	<b>放射線防護対策施設等で屋内退避を継続</b> ➢ それ以外の者とは別の施設で屋内退避。	➢ それ以外の者とは、別々の車両で避難。	➢ それ以外の者とは、別施設に避難。また、施設内では密集を避ける。	
	感染者(軽症者等)※2 それ以外の者※3	<b>放射線防護対策施設等で屋内退避を継続</b> ➢ 感染者(軽症者等)とは別の施設で屋内退避。	➢ 感染者(軽症者等)とは、別々の車両で避難。	➢ 感染者とは、別施設に避難。また、施設内では密集を避ける。	
自宅等で避難準備	避難の実施により健康リスクが高まらない者	<b>バス避難者等の一時集合場所等</b> ➢ 密集を避け、極力分散して集合。 (例) ・ 一時集合場所等を経由せず、直接指定された避難施設へ避難する。 [それ以外の者] ・ 検温等による体調確認を行う。 ・ 一時集合場所等の中で分ける。ただし、別部屋に分けられない場合は、同部屋内で十分な間隔を確保する。 ・ 一時集合場所等の場所を分ける。	<b>避難車両</b> ➢ バス等で避難する際は、密集を避け、極力分散して避難。 (例) ・ 追加車両の準備やピストン輸送等を実施する。 ・ マスクを着用し、座席を十分離して着席する。	<b>避難所等</b> ➢ 感染者(軽症者等)は、それ以外の者とは隔離するため、別施設や個室等に避難。また、密集を避ける。	
	感染者(軽症者等)※2 それ以外の者※3	<b>【SE】避難等開始</b>	➢ バス等で避難する際は、密集を避け、極力分散して避難。 (例) ・ 追加車両の準備やピストン輸送等を実施する。 ・ マスクを着用し、座席を十分離して着席する。	➢ 避難先施設では、密集を避ける。	
	感染者(重症者等)※2		<b>【GE】避難等開始</b>	➢ バス等で避難する際は、密集を避け、極力分散して避難。 (例) ・ 追加車両の準備やピストン輸送等を実施する。 ・ マスクの着用、座席を十分離して着席する。	➢ 感染者(軽症者等)は、それ以外の者とは隔離するため、別施設や個室等に避難。また、密集を避ける。
一般住民	➢ 指定避難所等に避難を実施する場合は、密集を避け、極力分散して避難。 (例) [感染者(軽症者等)] ・ 別車両により、指定された避難施設へ避難する。 [それ以外の者] ・ 検温等による体調確認を行う。 ・ 施設内の別部屋に分ける。ただし、別部屋に分けられない場合は、同部屋内で十分な間隔を確保する。 ・ 避難施設の場所を分ける。	➢ バス等で避難する際は、密集を避け、極力分散して避難。 (例) ・ 追加車両の準備やピストン輸送等を実施する。 ・ マスクの着用、座席を十分離して着席する。		➢ 避難先施設では、密集を避ける。	
	それ以外の者※3		➢ バス等で避難する際は、密集を避け、極力分散して避難。	➢ 避難先施設では、密集を避ける。	

※1 新型インフルエンザ等対策特別措置法第二条第一項に定める新型インフルエンザ等を指す。

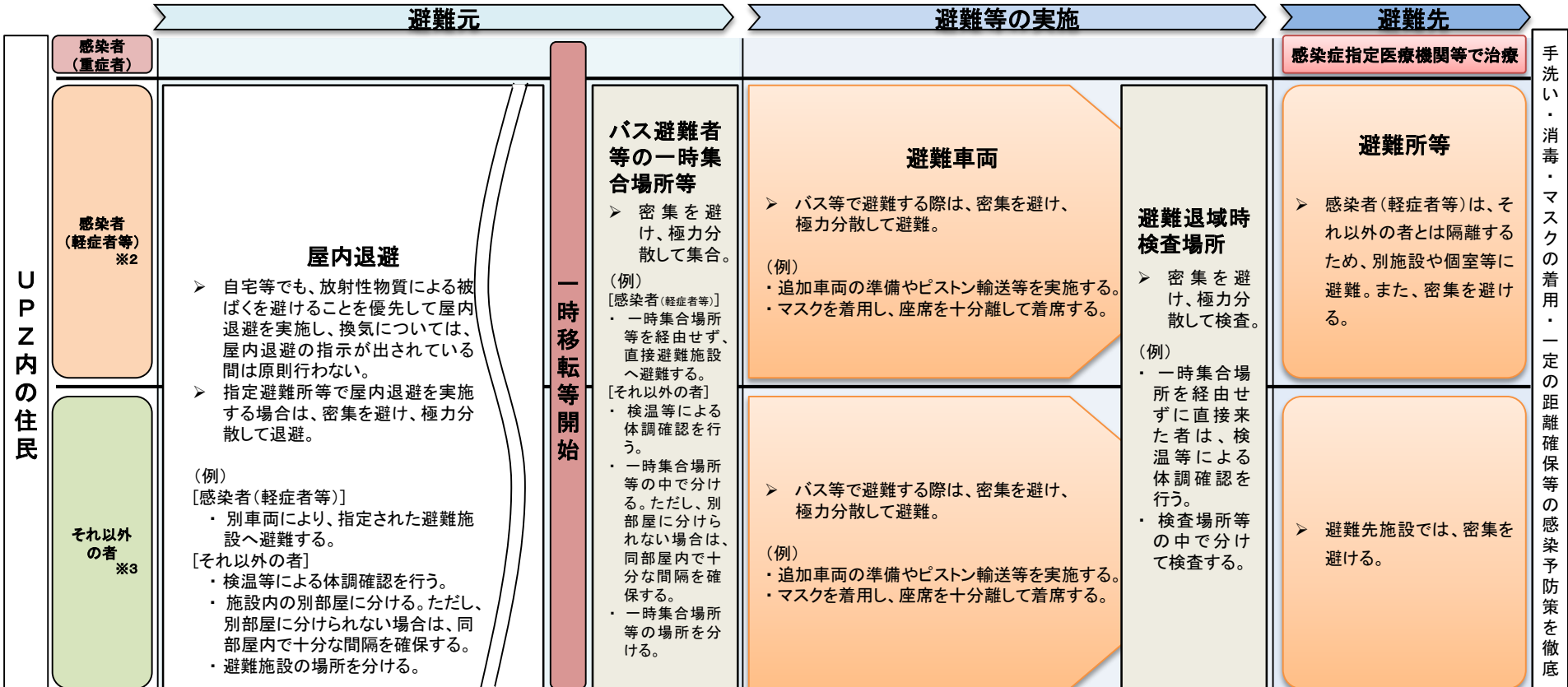
※2 軽症者等とは、入院治療が必要ない無症状病原体保有者及び軽症患者のこと。また、既にUPZ外のホテル等において、療養等している場合あり。

※3 濃厚接触者、発熱者等の感染の疑いのある者、又はそれ以外の者は、可能な限りそれぞれ別々に避難(車両、避難所等)する。

# 感染症※1の流行下でのUPZ内の防護措置

- 感染症の流行下において原子力災害が発生した場合、感染者や感染の疑いのある者も含め、感染拡大・予防対策を十分考慮した上で、避難や屋内退避等の各種防護措置を行う。
- 具体的には、UPZ内の住民が一時移転等を行う場合には、その過程（避難車両等）又は避難先（避難所等）などにおける感染拡大を防ぐため、感染者とそれ以外の者との分離、人と人との距離の確保、マスクの着用、手洗いなどの手指衛生等の感染対策を実施する。
- 自宅等で屋内退避を行う場合には、放射性物質による被ばくを避けることを優先して屋内退避を実施し、換気については、屋内退避の指示が出されている間は原則行わないこととする。また、自然災害により指定避難所等で屋内退避する場合は、密集を避け、極力分散して退避することとし、これが困難な場合には、市町村が開設する近隣の別の指定避難所等や、あらかじめ定められているUPZ外の避難先へ避難する。
- 原子力災害の発生状況、感染拡大の状況及び避難車両や避難所等の確保状況など、その時々状況に応じて、車両や避難所を分ける、又は同じ車両や避難所内で距離や離隔を保つなど、柔軟に対応する。

## ＜感染症（新型インフルエンザ等）の流行下での原子力災害が発生した場合（UPZ）＞



※1 新型インフルエンザ等対策特別措置法第二条第一項に定める新型インフルエンザ等を指す。

※2 軽症者等とは、入院治療が必要ない無症状病原体保有者及び軽症患者のこと。また、既にUPZ外のホテル等において、療養等している場合あり。

※3 濃厚接触者、発熱者等の感染の疑いのある者、又はそれ以外の者は、可能な限りそれぞれ別々に避難（車両、避難所等）する。

# 住民避難支援・円滑化システム (***SAFER*** (セイファー) : ***System Assisting and Facilitating Evacuation for Resident***) 開発プロジェクトについて

1. (原子力) 防災はこうありたい ①
2. 何が足りないか ②
3. 使われてこそ ③
4. 原子力災害時の避難を円滑に行うためのトータルシステムの開発  
住民避難支援・円滑化システム SAFER (セイファー) ⑩
5. SAFER (セイファー) では何ができるのか ⑯

### ● 原子力防災分野のデジガバ (Digital Government)

- ・ 災害現場で求められるものは、早く・正確な情報。
- ・ 紙と鉛筆、気合と根性だけでは、もう対応できない。

⇒ 原子力防災分野のデジタルシフトが急務

### ● 自助・共助の公助化 (公助の限界)

- ・ 自然災害の規模は、年々深刻化。
- ・ 「守るべき命」の複雑化に伴うニーズの多様化。

⇒ 情報プラットフォームが必須

### ● ITボーイからICTボーイへ

- ・ 防災は、人と人とのつながりを保つ仕事。
- ・ つながる技術 (メール、チャット、SNS等) を使いこなす。

⇒ セキュリティ・情報リテラシー・情報倫理が求められる

### ● 情報の「使える」データ化

- ・ 重要施設の所在情報や名簿等は、未だに紙束。
- ・ データも、Not AI Ready（「使えない」データ）。

⇒ データ利用を踏まえた入力フォーマットの統一が必要

### ● 情報のキャッチボール

- ・ ニーズを踏まえない情報をただ投げ続ける、壁当て状態。
- ・ タイムリーではない＝エラーであり、生命の危機に直結。

⇒ 住民一人一人とつながる双方向プラットフォームの整備

### ● 使ってもらえないと、バズらず炎上

- ・ 情報は溢れかえっており、情報に溺れている状態。
- ・ 「使ってもらえる」は「既に使っている」。

⇒ ガラパゴスな新品ではなく、普段使っているものを優先。